

フィリピンの神話と伝説

22 . ベルナルド・カルピオの伝説 (リサーチ)
昔々の大昔、子どもがほしいのに、与えられない夫婦がいました。そして、彼らが年取った時、彼らが驚いたことに、赤ちゃんに恵まれ、彼らはその子に、ベルナルド・カルピオという名前をつけました。

彼は生まれてすぐ、ベルナルドは普通の子どもとは明らかに違って、彼はその年齢よりもずっと力を持った子どもでした。生まれて、ほんの数ヶ月で、木工細工の釘を、彼の小さなかわいい手で引き抜くし、握りこぶしで、建築用レンガを壊すのです。

ベルナルドが力持ちであることの噂は、彼が十代になる頃にはその地方全体に広まり、人々は、腕相撲などで彼の力を試してやろうと、遠い所からもやってきました。

しかし時が過ぎるに従って、ベルナルドはどんどん強く成長して、たとえ彼の2倍の大きさの人であっても、だれも腕相撲で、彼を負かせなくなりました。

しかし、ベルナルドの力を与えるための食べ物は、すぐに彼の年取った両親には、心配の種になりました。毎回の食事で、ベルナルドは豚を丸ごと一頭、数羽の鶏、バケツ2杯の米を、簡単に食べてしまうのです。彼は、自分の存在が、愛する両親の経済的な重荷になっていることに気付いた時、ベルナルドは家を出る決心をしました。彼は近くの山に移りました。そこにはたくさんの野生の動物や果物があって、彼の巨大な食欲を満たすことができました。そして、新鮮な山の小川の水から、彼は十分飲むことができたのです。

しかし、ベルナルドは決して彼の両親のことを忘れず、定期的に山から彼らを訪ねました。そして、毎回訪問する時に、どんなに彼が強くなったか、説明したものでした。

ベルナルドは山での生活を楽しんでいましたが、そこはサンメトロ山脈として知られていました。彼はそこに住む野生の動物と格闘して、彼の力はどんどん強くなりました。しかし、ベルナルドの並ぶものない力に、対抗できるような動物はいませんでした。

しかし、ある日、ある者がベルナルドの素朴な世界を壊して、妨げようとする者がいました。ベルナルドが山の小川の水を飲んでいると、彼は背後

に、叫び声を聞きました。「お前は誰だ。そして、どうして私の所有権を侵害するんだ。」

ベルナルドが小川から立ち上がり、振り返ると、彼は巨大な男が彼の前に立っているのを見ました。それは彼よりも何メートルも高く、彼の体と顔は、毛深く、目は鋭い黒光りをしていました。

「私は、ベルナルド・カルピオだ。」とベルナルドは答えました。「それで、お前は誰だ。」

その恐ろしい生き物は、毛深い胸を叩き、吼えました。「おれは、サンメトロの山全体の王だ。この山は、私のためにだけある。」

そして、その奇怪な動物はベルナルドに突きを入れて、そのふたりは川のそばで戦い、お互いの周りがあるものを投げ合って、木を押ししたり、岩を砕いたりしました。地面は大変揺れて、人々は、近くのすべての村に、地震か戦慄が起こったと思いました。

しかし、ついに、相手が優位であったにも関わらず、ベルナルドは恐ろしい山の王を破り、相手は近くの山に逃げて、力を持ったベルナルドを負かせて、たたきのめすための計画を立てました。

あまり時間も過ぎない間に、山の王は、ベルナルドへの恨みを晴らすために、あだ討ちに帰ってきました。彼はベルナルドに前の彼との戦いのことを詫び、改心して、彼を山の反対側のほら穴の彼の家に招待して、食事と休養を提供する、と申し出ました。

ベルナルドは好意を感じて、招待を受け入れて、山の王について、彼の洞窟の家に行き、相手の心に裏切りがあることに、怪しい気持ちを持っていませんでした。

彼らが洞窟の家に着いた時、山の王はおじぎをして、ベルナルドに先に入るように頼みました。怪しいことなど思いもよらず、ベルナルドは主催者に感謝し、洞窟に入りましたが、中に出入りできるのはひとりだけでした。

しかし、ベルナルドが洞窟に入るとすぐに、山の王は彼の悪い計画を実行し、巨大な岩が放たれ、それは砕けて、罫にはまった不幸なベルナルドが中にいる、洞窟の入り口をふさいでしまいました。

どうしようもないベルナルドは疲れて、彼は何トンもある巨大な岩を動かすことも破壊することもできません。山の王は、大笑いして、洞窟から

フィリピンの神話と伝説

離れて行き、強い相手に勝ったことで、満足していました。

ところが森の女神が、痛ましい出来事を目撃して、それは正当な戦いではなく、洞窟の中にいるベルナルドへの罠であったことを知っていました。彼女はだました巨人に付いて行き、彼の道に立ちはだかりました。「お前は臆病な、いかさましだ。だから、私はお前を罰して永久にお前の洞窟の囚人にする。」そういつて彼女は魔法の杖で、彼を呪いました。

ベルナルドは怪物の洞窟から解放されて、森の女神の優しさと愛で元気を取り戻しました。彼女は不死身のベルナルドに、ずっと豊富な植物や動物に目を配り、美しいサンメトロ山脈を歩き回って、彼女が世の初めから用意した植物や動物の管理をするように頼みました。

何日身、何週間も、何ヶ月も、そして何年も、怪物のような巨人は洞窟に閉ざされて、彼は全力でドシンと巨大な岩を叩き続けましたが、それは無意味な努力でした。彼は、罠の洞窟に残りの生涯を閉じ込められるように運命付けられていたのです。

今日においても、リサールの人々は、彼らの愛した神話の英雄が、サンメトロ山脈の岩の上に、ベルナルドの足跡が見えることを誇りに思っています。